

## 農薬適正使用ナビゲーションシステム（農薬ナビ）の開発

### 1 中核機関・研究総括者

（独）農業・生物系特定産業技術研究機構中央農業総合研究センター  
南石 晃明

### 2 研究期間

2004～2006 年度（3 年間）

### 3 研究目的

農薬取締法の改正を契機に、農産物の生産段階において農薬の適正な使用を支援するシステムの確立が求められている。このため、農薬容器にバーコード・無線 IC タグを添付し農薬使用の自動認識を行うことで、不注意による誤使用防止や農薬使用履歴の自動記録を可能にするとともに、減農薬栽培支援にも応用可能な農薬適正使用ナビゲーションシステム（農薬ナビ）を開発する。

### 4 研究内容及び実施体制

#### ① 農薬適正使用判定支援システムの開発（（独）中央農業総合研究センター、長野県農業総合試験場、ソリマチ（株））

農薬使用の妥当性を事前に判定する判定サーバシステム、適正な農薬使用計画や防除指針を簡易かつ正確に作成できる農薬使用計画・指針作成システムの開発を行う。

#### ② 農薬使用自動認識・現場警告システムの開発（（独）中央農業総合研究センター、東京大学、（有）日本農業アイティー化協会、山形県立農業試験場）

バーコードや無線 IC タグ活用して使用予定の農薬の適否判定・警告情報をリアルタイムに作業者に提示する現場警告システム、圃場における農薬使用状況を超省力かつ客観的に把握する農薬使用自動認識システムの開発を行う。

### 5 目標とする成果

不注意による誤使用防止や農薬使用履歴の自動記録を可能にする農薬適正使用ナビゲーションシステムが開発される。これにより、農薬誤使用が事前に防止されると共に効果的な農薬使用や減農薬栽培が促進される効果が期待できる。また、農薬使用履歴の裏付けとなる客観的なデータ収集・蓄積を省力的・自動的に行うことが可能になる。